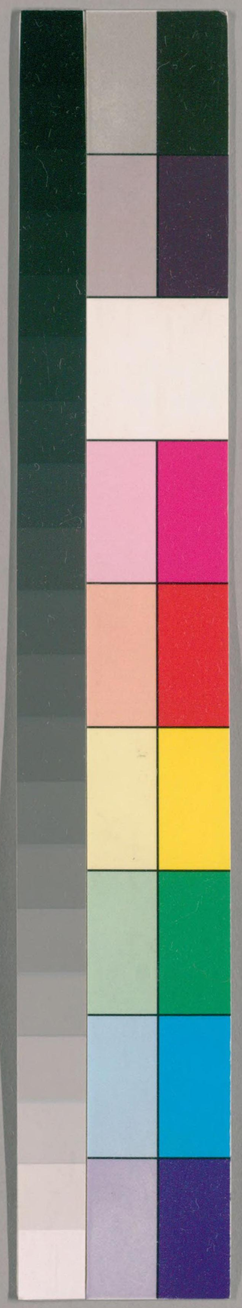
丹鶴叢書

九條右大臣集
御堂関白集
藤原家經朝臣集

117
105
2

東京圖書館
和書門
裝昏類
別ね函
1 二架
2 二號
一〇五冊



国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

東京圖書館藏

丹鶴叢書

丁未帙

故椒原芳埜納本

椒原家藏

從五位下行土佐守源朝臣忠央輯刻

九條右大臣集

九条殿（師輔公）

[illegible]

後撰雜一

[illegible]

同　廣明朝臣

いそしつをおもてかけちかきこひしちぬの海天の羽衣
おなしとのあはれきかけてつかせもつみかひ
侍る

りのちを君はつらしとおもはやまにひのをかをきもむ
よし　とゝこ

あふさかのせきにはとかくむよそふハ志るへんはなしに
そらにきぬおほえ侍る手に

新勅撰恋四

むさしのゝ野中をわけてつみ初しわか紫のいろハかはらさき　うきうこの　勅
志のむしろ恥よりもまさるらく

新古今恋三

さひつゝも見えんかすみてけさハ袖をほしそのなつる

九条

秋のころそなりけり

後撰秋中

露ふかくぬ我身をおきて秋のよとかくてもあかしかねつゝ
よし

秋をあさみかへらぬをとはやたのさハ人のおきなのらん　さん
くちなたのあし　ふつきゝ侍る　万　続千

続千載雑中
万代雑三

思ひやる雄のまつけさ山里ハ経をたくもたのまさるらん
さめけいつの内侍きよそつなるいつみまつさを
侍る内侍

忘らるゝ浮みつきはさやかにこらさし　水え
さえのこのぬまきをゆゝ侍るてらやの内侍

新千載恋一

人しまいやふんのまつりしにまゆふとも　とけよ　彰千

四ぬよまれしかよひまふとうんのあをとまつりとしく

まてまつりを給ふとく

こゐとてまれるたのひもかくふさくとぬやまゐ

てらつこのたまとうとみくまん

続後拾恋二　よそへしん

うきにおふるあしの孫のまゐ社はいとまよひふるんも社をは

万代恋四

をし

続後拾恋二

世のうきにおふるみつまのこうつれくあつしとハ家もせまえをひ

さとへいつとくたを君

まもまひハたゐまにしめてきぬさまれぬ孫のあしつをとく

九条

新勅　梅花を折て　丹鶴うもとにつかしなる　九条右大臣

中務集　人のおきしくおとつまぬに正月一日

きむきよりむすめんこえ給ふく女

たまのそかつるまてにもきさくの枝のちりをかしひつるかな

逸し

人をまゐゆるにまれきいてまとうにまうりはまるもしらぬ

人のもとにつかしまる

後撰恋三

かくまぬにまむをし鳥のまゐさえ給ふてとうひまさ抱にそおくる

なりつさの花のをにしよりを

新勅春上　とも勅

いつかやもおかれしとまゐ宿の梅をとまれぬまちハさにかれ

中務集　中同　いつかれし勅

このゐし

ワまとまるしまとに梅を孫をとしめてしへ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

まけまゝもかむさて見んに

秋のよのあてのはなよくやしさは海鳥子ゆきやみたん

そし

ゆるさにくる海鳥のこふさとまさはかへるこしてよんあるまたり

まいなんてんのすきにむすむつく

続千載秋上

白なのおくよるも秋むくむすきわすてゝ風にしむきぬるや

万代秋上

小武のめ此とのきこえまる

新こえておわつかきは鳴鳥のよふくかにふそみたる

そし

よひとにつぬるものをぬるとりの語こそこゝぬ者をはさらすや

九条

ひうおもしなるとき里志きてまてこゝる人に

おほつかまむ里志てゝ新云もつけをゆにいつちゆまし

人をひ此ことしとみのこうもうし

万代恋五

秋萩の下にかよひし庚の孫もそはかゝ所(ひ万)なりやさぬらん

まゝて

としをふこゝる秋ましやまとうゆおおしとや名にはこゝ

このことはこゝく女

こゝさまく波の中にはさつめともあのまゝしぬることをしてはこ

女イ

民をめのこゝにおくとも侍る

後撰恋三

ましつ此さまへましはへぬまともんはをのうへにのみこそ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

後撰 西四条ミこの家の山ゝて女四のミこのことゝ

おほむこの君し

後撰恋三 女四のミこ

あらつのさゝぬふうるゝあらはなをとへてさいはをまゝのそはしまし

又をとこ

山さるゝ思ひのくまをそまをまをぬなにこゝろかなるゝ

ゝし

春霞思ひたちてしかとへなたまつのもしかたまくしまし

しのゝめかまくしまし

後撰賀

おきてる和の嫁の枝をうへとつちよを謹とうへ三ツ

さいゝめのくるものふかし

新続古別

おふとのおくしふまゝふ小舟ゆゑとまる我さへこゝろ乱ぬるゝ

新続古

おほむこの君し

やそしまのうらみてかゝる舟よりやそうれはてちの風をまつ

こまとてとの

まとのまゝはたをぬとのとおしうと秋よはあへぬ物をさりなる

おかゆゝをし

はさまをぬ杖をとゝしぬとのれかりをちるとも天はとりよ

との

この秋ぬへこそ草のゆうをとはしとて

とうへぬ人はまやや

ゝし

新勅恋四 影しはまゝ人ゝ志しし勅

なのまのうへともはしむさしはし

とまゝはゆのうの勅

草ゝ草ゝまゝのゝぬは

と勅

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

続後拾 女ゝつゝりける 万代同

まことの

続後撰恋一

おとはしの春ふのこゝろゆりはしまむなる人のかけとたふこそ

の 続後

逢し

新古今恋一 よゝへしこそ

あるとのゝおとはゆつる音羽川こゝろはそこはかけやこそなん

て 新古 も同

はしゝ

続後拾恋一

人しまゝ思ひそめてしのこゝろはむぬへくおもはをるゝ那

万代恋一

おもむかへし

ゆるさまぬものとしたれは紅のかゝはしるゝこはこゝろもあらん

まことの

ふるまはしてかゝふるなかめにも水はさりてそ人はてむしき

逢し

秋風にみもまさしてなかめにそふくなの秋ぬにのとこそきた

との

なかれしよとのあやしく夜学秋志にもてこのなかまさるゝ

うるし

志にくのゝ那まさるゝんこのまゝ秋るゝこはまさるらむ

まこと

新続古恋五 松 新続古

夜風のあやしきものはめにそこぬ人をあきれと思ふるゝ

とき 新続古

かへし

風のおとふきてはいつにおかつなおしとのこもおもはゆるゝ那

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

又

あまれたるをかくこふまるまでとハまゝ猶をのこそ物さめふする
ましし家

又

続後撰恋四

枯萩のうちにのきをみるはそ人のあまれ(ひとりある人)ハ続後
あかるし宝

妹まきの下葉のきをこさるまをもて思ひもせしやみも志るまし
とのもえふき始むとく

婦くふえのいきつくをとおく絶えくしくあるを恨さらなん

新勅 貞信公かくれ侍てのちかの家にかくつてしみ侍る

新古今雜中 冬の比大ねくなりそしあるくこと侍るあつまし右大臣にあつてくらし侍る 東三条入道 関白太政大臣

かるせもありけるものをうち川のこそ取汁もあけきけるや

新古今恋四 中務

同あるさよの法とめてよくの月をいくとゆきしかハ
いつとても雲と見ふを猶ぬるよの月ハおかつてなくそこし

中務集

洞院にまゐてのち

新勅雜三

おとさかへまこちハ苔のやとなきとたのみしかくそとまらさりける

朱雀院のこうとのこのまにこゆきあるをかるおかすと
とをふさいることにのまくえつうまつるを始めぬに歩し
ひとつとくふつてくまいをとうけきハそうしまひける
かるをもあるけるものをとまりぬて男をうちかと思ひけるな
あるにさこえくまひけるこうつまれるものあふきを
てまりけるものとく

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

新勅恋二

ゆくへの松の烟もとだえとだえ

（ゆくへの松の烟もとだえとだえ）

（新勅）

（くちおらしく 考歌）

新千載哀

（新千）

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

新勅 天暦八年おほ
きさいの宮のうちにれさせ
おはして五七日に誦経
せさせたまふる榻のもと
のかけてのしたに入て侍り
ける

後撰 女四のみこのふみ
の侍るにかきつけて内
侍のすけに

[illegible]

続後拾哀
[illegible]
日のかけ 続後拾

あいしまの浦の七日のすゑ
[illegible]

新勅雜三
[illegible]
女院のもの[illegible]

後撰哀
きの[illegible]

後撰哀
[illegible]

[illegible]

後撰哀 内侍のすけ
[illegible]
[illegible]後

女のもとにつかはしける
[illegible]

後撰雜三 左大臣
[illegible]
[illegible]後

後撰雜三 [illegible]
[illegible]
[illegible]後

後撰恋六
[illegible]

後撰恋五

思ひいえつつきはこよハ雨も人めもこらさらなん

兼輔朝臣のあまくあそひしそのかりはと

しくしてかへるとく

後撰春下 三条右大臣

時るみしむのかりて字ふ（さ後）ハ祝てこそさらはかりまさり

この君し

同 兼すけの朝臣

（孫後）

（ら日上）

（こそんや八 日上）

ひとのこみてしの君まて後むんとてるるとこそんや

其作にてるへ出家はしまふとく

あまれてふんまれ□のしられてしまも秋のきとぬかる

かなし

うれしきにあまるなこのこりまて居きて祝もかひなりけるを

小のうれおもむいこのころかしまるまゐら

をのふとく

おくまゐくおくんをさおふて清の姫ハゆきてつかん

あままよりハつむ

思ひやる清のこちまてひましまをとおもふしまんを志ゆ

あちこちの兼ときみちのくまくなるとてくるふ

それむ字のふとく

新千載離別

さくくまの松ハいくよつまるとも家とかそへて過るあそなん

さうるもかねさて

後拾遺恋四 新しい盛かね

かきるもそれ思ふまほさぬ浦やおきつ神のくちぬ平ふ

（も後拾）

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

作入撰集漏家集歌

おほまてう（大 補）後源敬に係るにふもはれよをみなへしとうもうへ法ゆきしなる

後撰秋中

とうもうみる袖さへぬるをとかへしなかへしものとそやもしるんうへし

おかすけ（大 補）

同

よ後つゝにかたんなかをかもしかまにしてぬるもむまくし

同

おきあはなかよかしへまきはまてきぬるとも思はさりけるまし

同

くはやうもうとうぬへきしらかのんおしとよをやへにはる

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

大捕
おほまたてつりしける

同恋一
[illegible]

同恋三
[illegible]

同雜三
[illegible]

[illegible]延法師

同
[illegible]

女四のみこ[illegible]

同哀
[illegible]

在于上
天徳三年内裏に花宴[illegible]

拾遺賀
[illegible]

新勅春上
[illegible]

在于上
[illegible]

続後撰恋三
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

続古今春下

[illegible]

新続古恋三

[illegible]

在于上

関白二字不私改

御堂関白集

三位中将春日の使志ゐ[illegible]

後拾遺雜五
栄花物語初花巻

[illegible]

公任集

[illegible]

後拾遺同
栄花同

前大納言公任

[illegible]

後拾

公任集

[illegible]

栄花同

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

のきんし　はつりはよりも　お梅のひとりしてを
まゐらせまゐらせ
霧こそんのもりをとりむ梅むいつまのひまにさそれぬらん
ゑし（ヨイ）
むまも　おき霧ぬまより梅のひとりまゐりにてもいてをとりむ
三月廿五日に夜のうへ家と清經ひけおとく
やうをさせまゐらせ名馬をまゐらせ（ヒイ）
春霧よそのこゝろをまゐらせ　ふ燈よんをそやす
清之　す
まち霧宇の燈よそへにてそしのにしもとまハみえ宇（ヲイ）

四月一日　新院よりも
ことぬまにまちもるにきこえんかの宇をとおてそやす
清之し
うまきのもかくおとふれ夜ゑおかつなきのまさるをさう
廿よ（ロイ）日のひとに後よりいとちひさ事さう　ぬとて
てまつらを殆へるを清經しいく　ゑより
ほとゝきひ待ときてやおやめくさまこうつき稲をもゑる（ミヤ）
清之し（ヨイ）
ゆうまもなつらぬおやめと時るまつとてや秋者をまゐぬ
正月廿（ナロイ）日よひのほとに夜にしくふるに雨後より

しるしめや日数のこゝろなりめにはむの袖もしらぬこのそれ（なイ）

七月八日まこ津とめて新続ようたうの雲

いみしうおきさせるにまこ津とのこそりさる袖に（なイ）

続千載秋上　選子内親王

露おきてあかむる袖を思ひやれ天のかたらの暁のそら

法とうす

新続古秋上

天河まをゆくほとの露たきにいつもおなし雲をなかめて（きとイ）（さ新続古）

なり月廿（四イ）（又イ同）るよひの夕くれにはこの音しきつけよりも

もこゝろなるにときの風（はものイ）をしきなるに二面袖に

法文にてまつら数をまゝにまゝ

玉葉恋四　万代秋上　夫木十

萩のまに風の袖に夕ぐるはおかしんにあかめましやれ（と玉夫）（ら玉夫）

とのこうへきよりしよりきてこえさをのふ

秋ふかきこのたしきを詠むまゝて音にまつ風のこゝにもたゝ乱

法のへまてに

しきても風のけしきの秋ふかきこのおくのみなかめやら法

花の袖よりも法ふかきあるも

玉葉雜三

せきの音をいかにせらむ（も玉）（う玉）ぬきなる袖にもあらぬや（たゝ玉）（ゝ玉）（ゝ乱玉）（ゝ玉月）

法とうす

木のはちる秋の音さのかさも湖の音にそいとしきなる

せまえに（へイ）にしてすゝ面をつくるとて（とイ）ためのふ

うまひさふらひの法中につけふのきみ

かひの国にはへりけるころ人のもとに事とハいふはあめのふるとやいふなるへし

正月三日殿上のはしめにてまつりことしるとも

まとひつくるへし

ふるとしのはつ人の松をひきてかへりて千代とこそなれ

遅し

君か千歳を松にひかるゝ松たのまれまさや代のためしとなるらん

毎よるまらうとまてまつるをのへも

さし河海に手ふれたるものハ□おほくるたその浦にもよをまたはるかなき

蔵人かねうちよせかうけるたるのおとのよふきつるえ

きこすをぬへし

あしたをまちておほせことかいありけるかちてさまの千代をおもふおる

あるやうありてまかりいつるところあるまじうんたまへいる

のとかなくりなん

拾遺雑春 千載雑中 公任集 玄々集

谷の戸をとぢやはてつる鶯のまつに音せで春のくれぬる

はるの事

拾遺同 公任集

おとさのくるまもろともに花さかぬ浪のかれしのやまあまてこゑ

五月三日あそひにいとしきあそひてことをさしかい

しまみるをとほし

雲ゐに□さくるあそてとの頃まてかしりるかひぬなむ

とし

新千載別

原本欠在一本

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

故イ
こかねのまへきよこつりしてもまへるにつきもより
風のあらきけしきをみても秋ふきこの木の葉をせひそ
ちまし
はらとなり
秋ふきこの風ととふことのまへちる事うれしけれ
あつまりまく嶋家ぶいきけるなにしれ
のいとしく志事まへあるにあらはれ
しやうのきみ三木のすけおとゝのまをまへ
事まへとのうつしまゝのく
まれてのむりとてふる我宿に時雨ふきまるそのうひ人
七月ふつきイ
もうまに一条とのうへくしく石こにても

らをとゝまへ事ふ事りなりまゝ
りしくはふこまる内侍のかんのとのうし
人をのみ思ひやるまに此こゝろも関にこゝろ此こゝろ日なき
はらとまし
まつまてもゆきもかとてお坂の宮に都ハ之とまるかん
府城よりまし
学のおもをぬまをもみ事秋いまゝ花につまをてさそん
はらとなり
うちにひき学さそふむにてんのまゝ川も志りまゝ
内侍のかんのとのひさしうきこゝ給ひて御女あるを

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

内侍のかんのとのよりまくまゐりし

新千載賀 枇杷皇太后宮

なかうことのためしにむけはあやめなかりしとのはなかりしを

新後拾夏 同

[illegible]

新千載賀

おほとちてむけるあやめの花をこそそけふよりもきなれしるを

新後拾夏

左衛門督後の小のこうしきしめてつまんに

おほとちてけふもしりもからぬはあやめの花さへなつてはるる

[illegible]

あやめなきはるをこそ花もへしまんふき花もおもはしかりけり

かねこ位あまふなりまふりしなりさうそく

つまんとて

新古今雜下

あまさみてしこの花をうちけし花のあるをこそこのつゐ

[illegible]

なまにはるるはうちまつる花もてもるふまうそ

[illegible]

思ひしるへをこまさて兵中にはむかぬかたをこそなりけれ

[illegible]

住吉のつきをぬうしを詠まれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

以下缺諸本同

一本奥書

鎌倉於旅宿藤谷殿被見御堂大殿集予始而見之則書写之此本者従故禅門之時所持云々雖然不分明本欤以證本可挍合者也

嘉元二年二月廿七日　判

家經朝臣集

敷上人公みあまきこゝ寄るに毛禾ちるにかれる尼

みてるもともてを

山櫻来ゝにほふこのよろハうらやましくをみゆる宿のゐ

志れのよくてるみちにまく

詞花雜下　かさしなき袖のうへにくみるはなきをすとのものにおとる

玄々集　極山ち詠落葉続時　椅一字

古本一字抄　風をいたみもみちちりしこの木に海にんたるも旦

大井河落葉満流

新古今冬
ふりを舟志ふくはうにをみちなのまゝまてくる大ゐ河かな

九月廿九日惜秋

秋をとゝをしむ心にまかせまやこよひもあけぬあはれてさし

山家梅

まむ人の心のなをそ山さとのふゆのなさくまるそみく音なる

聖晩霧

日もくまぬ〻ふすかへしてくるをそこともみえ〻のへの霧かし

玉葉雜一万代夏
岳玉万
夏月のまへにともとまつ

妹よりもみるなと久し夏のおほ月にハ人をまつへのりなを

五月法花懺法詠空言有所

すゝかはをむるまさまつことへてもおもひ(ふれ)おとひのまハ有かハ

居易初到忠州をよむ

後拾遺秋上
いそきてしまこそきつまこ山さとにいつよりもある秋の月をも

落葉如雨

後拾遺冬
もみちちるまゝ時雨の心ちしてこまゝ心のまいハくをくさ

西ハ来にくへくまゝつの影をよみけりと雪こく

これともおくさしおかをくる

さしぬきはみさまはしとまやさきさいまゝ時雨のまるハをとしとも

秋のまゝ夏むくく

風ふりそのこれもおしし花落秋よりら秋くへまゝ稀くれも

伊勢大輔集 ある山さとにまかりたりしにいへつゆかもとちかしときゝていひつかはし

返し二首

人もまゐむまゐらしかれぬの小のあやしくもまゐらるゝ
杜ゝにあらまさらしを花をきかのめまゐらん風にとりてや
山さとにあるとてきて女郎の大輔のおもとのちかまゐ
やまはしとかまゐ

伊勢大輔集

うらさひてくれてまゐらる山さとのあらぬる人をあはしし
かへし

同集

くまゝかつらくる人もあれ山さとにあらぬ（ハ）ことのくハいまゐかりしこまゐ（くをうしまゐてつまゐ 伊）
ある女のもとに石橋のあるをとゝにて
ワかやとにさくさくはるをあはしれゆゑ（さん）もまゐてうまゐむへまゐ

錫杖奇

万代釈

こまやこの月（子万）のとりもあらぬ人まゐかよの佛になるといふもの
まやうしなまたるし女のかとよりものをつゝみて
もにまゐむしのとかきまゐる
ワかしらくきくらんもしかなことワをあらや人のこゝむる

送能因入道二首なをしむ

後拾遺別

まゐれ杜ゝ月にまゐつゝ年ふをおくとおもはさうまゐ（ゐう 後拾）
まゐさこ杜まゐり
音にのこゆゝらさこの松風に都の杜を思ひてよの事みを
をのまくつきとて人のよまゐるこゝろあふさうの宮

いしゆくらひ人まちかねつゝはてゝる

あはさらはなかくもみすて秋かせのさそはぬまゝにてはへかける

志らまちは渡にゆく人さそふ

金葉雑上

ゆく人をたちとまらするしらかはのやまのあなかなん

とさすてふ月とのみむ宿あるら

続詞花秋上

ちるさとの月はひとつをてらせともところゆるかたもかはらり

西河寺秋夜三首よまれけり

ゆふ人やまつのとまりとみさへんちるかもるのきるかみなれ

こゝろのまゝ

秋をつまとるむかしはとまとのみえるらぬことはかりみしかはる

於西家詠之家秋月

都人いかにかなんまちの月もこよひとみゆる秋の〓

山里さへまさりて就筆花下提壺人を

みせはやとおもふこゝろのさとはなの人のつけもこえける

於西室詠紅葉未遍

井くふかくこゝろをみちぬとこそふかきまつそめる色はまた〓

女のこゝろに

なかのこともへんすなかにかはぬはかのつけなぬ色もきなかれ

女のこゝろさへるおもひさへあるとこへさるを

よめ人をまつるへきあれる神無月もしれは秋のなかにあはれ

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』請求記号 117-2

ガラス使用

もみぢちにまつやまのふるまちてみをとみけるを
白河の花にさふらぬ女のをにしにやる
新古今冬
ふさとそそもやそまぢ木ぬらんもみぢちにやまのふりぬる
十月十九五日にあまてのあらひいてよと女のをとりし
いひうるにいてしといへ
忘れむぬあまそいさよひ月新の事にやいてぬとまちんにむ
女のをにしてしさのふおとはまさく
玉葉恋二
いはてもやあられ玉ぬへきとてんこのこさのふのまいへしのねてき
うらむるをあらく女のをとりしいひやる
人こゝろさをそさしにちれのいはてそこにいへのりける

ある人の詩よりもあるおこをとてをやあるも言んかく
いへる
那こゝにいてしかものんやみまんよりこゝゆる人をこそきん
まし
おもつるかもものをのきしをくゆるや詩を忘れるや我
かをのしものみやしろにある女のまゐるもあひる
いし思ひくとを此人へし
うれくをかをのうれ川のにふきてころを志るを淳るれ
梅の木あまくれとおもへ人のもとにも
うめうえにそるをしまゑあしの間あるをつゝ淳しう忘てん

返しかりまやまとるにしんのしのえたにしるし

ほく

学るはてきまそてきある梅のまれまつさとの枝なりくつ

卯花

うれ花のさとに咲る来るは忘□ある枝そかさけ来はる

卯詠公

まもいても祢まさりけれ時なる鳴るん後とおもひしとも

四月のほとゝきまある女にまとゝ来るつかねと

むきなりとまあてこのくいひゝなる

いつとをまとゝ月なるまやめ子祝しや□かてやみなん

返し

音まていつは引しまやめ子かてもしらぬとしれそ

五月まは条の己荘とある女しのひとみなるに

まとゝのまとゝにふきつてまゝ

後拾遺雜五　伊勢大浦

こゝにまゝかなのさひねにあさまや入江のあの一よりと後拾

伊勢大浦集

のちりしこつてくいひやる

伊勢大浦集

まのこもそかなそ絶まとて河かさなんなりてもあらしも夜のしのあ

五月懺法次録二巻入於静宅

んのこまゝんはまみふる柴のともいまにし日よりとふ人もなし

思惟此經

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2　ガラス使用

続詞花釈　出続詞

まもひぬるくんのやうし時ぬまてやうれなし月もこえたる

晩夏二首　川くまあそふ

詞花夏

風ふけそ河へきしくるふみのさもつゆるへきんもてそをれ

とてなりけとそてあそふ

学校なりはおくともとて夏のぶし此なるは此へまてそ称め

ある女の法かけしさくふの女頭のゐるをみ

くいひける

いさまも母こきもやゆくと思ひしとまさのうら浪をかりけを

返し　女

うらこもむとおもふへしやはいさまも母なまもまもてのへるんなて

同女のもとに和泉ゆゆくりけると人のい

ひやる

いさまも母なまもまもしいつたなるものくのもまの風もふる

あるし　女

いさまふねなみや風とふことはすてうしよりをちふなるとこれ

あるへくたるふとて九条よるとまりて桜のえて

うしむきひつてあへる

志れをぬ夏くふふきもなち学ふはくふりはちのえそゆき

返し

くひねまるまへりむ事なりくやとてまるれ木のえのえつきぬんん

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

七月七日人のまゐりしやる
ひさまはしてもなすし天の川ふなてしまてよるまゐて梅よ
古曾ア入道有様引詞在九条別業右白贈
以一首于時雪降
まりつゝるあさちうへの志ゆきふ曲へさそもひさしを
かへしいよくふほと
あやすしやあさちうへのことのハふふてまるゆのんとむる
同入道伊なよりもおくまるうて
くおとうしやましきをたてへまあまをハおくしいそん月かも
返し

ひめくまおくにいつる月かけのいまつるふしとまきれのほつを
雪恵詠尋花日雪
一字抄
ゐてしおもあらんまきふゐハまちのをぬるんちこそきれ
於西京惜落花和哥
としとへかしのやすてつゝれもとしむまむもとまる時ゐる
三月廿日向西八条
なのるおもやみとうてゆるやとの梅ものこしさまたる
とこなりのをと女のたちにつゝをまるふかゝいつを
とこおつに白へるおのかとよりもとまるんのほとをこそこまを
とし

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

此哥恐失題予

[illegible]

詠曜変勝衆花　序者（有ん）

一字抄

[illegible]

或人の[illegible]

[illegible]

[illegible]

八条の家にて人々詠こそ小上月

[illegible]

[illegible]

拍詰のみちゝに船の中月といふ題にて

[illegible]

悲歎之間無惜放遊被牽好客至東山（旧跡ん）

不能俛忍遊月依水知山紫之事而已

[illegible]

一字抄

[illegible]

道雅三位西八条障子絵可合

[illegible]

此哥亦応失題

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

夫木　乃雅ハ山庄哥合　夫木廿四

此間恐応有缺

かなのかたとまにあやめかる人あまたしのをとにう
まをとゝめて人をまとゝる
あやめ草人のうるまもとりてまくとゝ引とめらるゝをのまてみたる
河内ハ此川ときハすしき秋風にかゝてあふまの風も忘れぬ
菅秋をものをとゝに車をとゝめてをみちこる
ワりやとに志てまつらんを付ちをのあるぬこゝろもたゝふ
家菅ぞつをとゝ門のおもに人きたる
山さとの秋のを志のきふるやまいりて人のかつてきつらん
同三年閏五月三ちをしにつきかけて人
のもとにいひやる

としふまと　むもき八　かすそふまをのかひあらけを
二月法てをまに左京大夫兼雅さくらの花の
枝をとりてさしうゑるとゝ河るに
うゑとゝきに候にけり我のみそまちにしられぬこゝあしかるる
三月つこをまに花法橋のおれるこゝ
志のひ秋をまちしかるん新云世とゝなれや問ふるを
二三ちをとゝくしにおくまる五し
まつにかゝて秋ぬよくまれ新云秋もさぬといまりしさし
ある女の人をあふてとゝ本ノ
花すしきさをしにおもしてんをよふさくる風もさゝめおきよに

此哥応脱詞昏矣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冬日於西宮詠行客吹笛　序者 有丸

一字抄

[illegible]

[illegible]

秋字

[illegible]

一字抄

[illegible]

秋字

[illegible]

ぬ字

永兼四年十一月十九日[illegible]の哥合月

金葉秋

[illegible]

同五年[illegible]一[illegible]合[illegible]

風雅春中
哥合三番右

[illegible]

万代春下

[illegible]

哥合九番右

[illegible]

八哥合

[illegible]

廉

後拾遺秋上

[illegible]

後拾

哥合十五番右

哥合同

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

かくれぬる夜の月かけもむかしのかけそ

よし

さそはるゝ人もあらは月とゝもにみてそゆかまし

又やる

またとふなけのは八□ともしらぬ人と月ともにかはしやしや八

於後亜相六条水閣對泉忘夏

志らくるいつみの水のまてそこの風とそ人をしる

夏のよの月

夜のよの月しつまりての水のぬるゝのみえける

秋とまつ川

秋さそふ風のこゝろのさかなるかな

七月さぬきにてみよしのの作るみちよりまかりてまかる

おくりける

うきこのまつとてそくつるかなしとまつとふる

返し

まつとふいまこそ海なみまたとのまさる舟のたよりなし

於月湛波亭（与九）探題深夜河辺水閣人を祝

因のはしのみくまりてめつるかふつかな

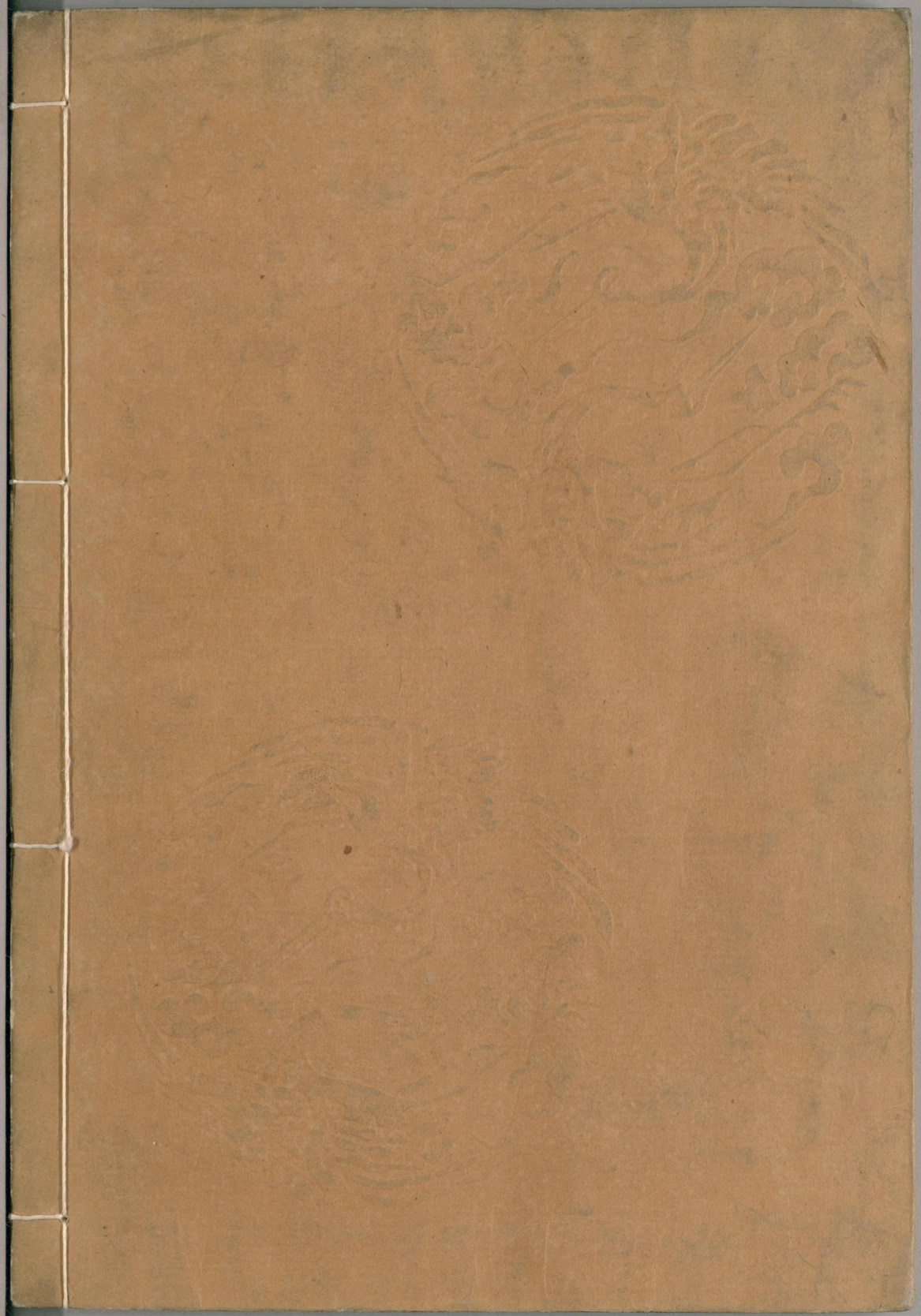
ふきすてゝ人しもゆるらむまくらのつゆのむすはるゝ

うかゝし祝因

117
105
2

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用